

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300088		
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会		
事業所名	グループホーム 春の山		
所在地	福岡県八女市上陽町北川内182-1		
自己評価作成日	平成28年1月11日	評価結果確定日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成28年1月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホーム春の山では、職員全員で話し合うことを大切にしている。経験の長さは関係なく、ひとりひとり意見を出して、良い方向を考えるようにしている。入居者のことであれば特に、たくさん時間をかけて話し合い、入居者本人はもちろん家族もまきこんで一番良い方法を考えている。全て希望通りにはいかないが、施設側の流れを決めてしまわず、朝のミーティング時によく話し合いをし、入居者が何を求めているかをひろいあげている。ひろいあげたことは実現につなげる努力をしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前にある春の山公園の名前をとって「春の山」と名付けられた当事業所は八女市内に複数の介護施設を運営する社会福祉法人を母体を持つ2ユニットグループホームである。上陽町の人口付近にあり、道路沿いのため市内から車のアクセスも良く、隣接して協力医院があることで医療サポートも得られやすい。開設から4年が経ち、徐々に地域との交流も深まってきており、昨年から小学校との交流や、地域の商工会からのボランティアの慰問など声掛けを頂くことも増えている。外食レクにも初めて取り組み、入居者や家族にも喜ばれ、新たな刺激の発掘にもなった。開設時から勤める管理者も経験を積んで日々運営改善に取り組んでおり、今後も地域の核となっていく活躍が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝各ユニットでミーティング後、その日の出勤者で理念の唱和をしている。色々な事を話し合う時に、「理念が〇〇だからね」と理念を頭において考えることができるようになってきた。	開設時に当初の職員で一緒に考えた事業所独自の理念があり、玄関やユニット内に3年ほど前から唱和をするようになった。初めは管理者から会議で伝えることが多かったが、今は職員にも馴染みが出てきて理念に沿った考えが出来るようになってきた。プランを考える時も理念の「～ひとりのあるがままを受け止め～」を引用したりと実践につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ない。積極的に外の掃除などに入居者を誘い出し、近くを通る方から声がかかることは多い。隣組には入っていないが、参加しやすいところから交流を増やしている。	地元の小学校の廃品回収の協力を始め、それをきっかけに子供110番の登録も行い、授業内の昔の遊びを知る協力に学校に行く計画を立てている。地区の「ひまわり応援隊」も毎年訪問してくれ、手紙やひまわりの差し入れを頂く。敬老会には地域ボランティアに来てもらうこともある。地域情報は近隣の住む職員を通して得ている。地域の民生委員会にも2ヶ月ごとに参加している。	入居者個人や事業所単位で町内会の加入を検討することで、町内活動などの地域交流を広げることを検討されてはどうか。また、老人会などの地域活動をされている団体の情報なども仕入れてみてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で施設内で起きている事、工夫していることなどを発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。日頃の報告に加えて、行事見学や施設内でおきていることなどを説明している。昨年より、内容を工夫したことで、参加者からの意見も具体的になったと感じる。その意見は、職員会議などで全職員に伝えるようにしている。	会議には民生委員、区長、市職員、地域包括、福祉センターなどに呼びかけ、家族は全員に案内し、5、6家族程度来られている。昨年家族に運営推進会議に関するアンケートをとり、日程などを見直し年間計画を立てるようになり、運営がスムーズになった。避難訓練と敬老会の際に同日に行き日頃の様子を見てもらっている。議事録は郵送で参加されていない家族にも報告している。	議事録の様式の中に、開催日時、参加者名、記録者などを記載することで、報告様式を統一してはどうだろうか。また、会議にテーマを設けることで、地域の方から意見やアドバイスを求めてもよいのではないかと。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者にも参加していただいている。地域密着型サービス連携会議に参加し、市や他事業所からアドバイスを受けている。開設して4年目の若い施設であるため、他の施設からたくさんのアドバイスをいただいている。	運営推進会議には基本的には毎回参加してもらい、介護申請や報告書なども窓口で持参している。2ヶ月ごとに開かれる地域密着型連携会議の事務世話人を市が行っており、集まりの際に相談することもある。最近ではマイナンバーや書類変更の件で相談を行い、担当者とも顔見知りで連絡も取りやすい。空室の照会などを頂くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず開放している。身体拘束について、介護職が勉強会を開催して意識している。	玄関は日中開錠し、夜間のみ施錠する。玄関、非常口にセンサー設置し、見守りで管理している。身体拘束廃止宣言を掲げ、以前は四点柵、車いすベルトの利用があったが、同意、記録、話し合いの上、すぐに解消した。毎月の勉強会の中で年に1回程度は拘束に関しても取り上げている。スピーチロックなども日頃から気を付けて管理者からも注意している。	

H28.1 自己・外部評価表 (GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職が勉強会を開催している。相談を受ける場合は、自宅での介護の状況なども詳しく聞き取りをするようにしている。研修でもらった虐待の芽チェックを活用している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関に資料を準備している。勉強会にて制度の理解を深める努力をしている。地域包括支援センターに相談している。	現在制度利用されている方はいないが、検討をされた方がおり、地域包括にも相談を行った。外部研修にも参加し、内部での伝達も行った。職員も一般的な制度理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に細かく説明を行っている。又、入居中必要な部分は、再度、詳しく説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	代表者は、入居者それぞれと話し、そこで聞いた意見などはすぐに管理者へ伝え、改善などにつなげている。家族には面会時と、月1回発行のおたよりで細かく報告している。入居者担当職員が中心となって入居者、家族からの意見をひろいあげている。	法人の理事長が現場を回って、目線を合わせて入居者と話し、傾聴し、上がった話を職員に伝えている。最近では空調、室温改善を行った。家族とは面会時に意見を聞き、請求時には写真付きの「春の山便り」を管理者が個別に発行している。意見から、職員の顔と名前が一致するよう紹介写真も掲示するようになったり、トイレ手すりの設置を行った。	法人からのアンケートや満足度調査などで、隠れた意見や要望などを引き出したたり、家族会の検討などを進めてみてよいのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から会話する機会を多くもち相談しやすい雰囲気作りを意識している。	毎朝のユニットごとのミーティングと毎月の定例会議があり、正社員が参加している。パート職員は後から議事録で内容確認をする。会議では入居者のプランや状況、行事企画などが話されている。家族から聞いた要望から手作りおやつなどの反映など積極的にされる。脱衣場の手すりの取り付けなども意見から反映された。日頃も管理者とは気さくに話せ、理事長とも来所時に気軽に話すことができる。	パート職員が定例会議に参加していないので参加機会の検討がなされることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日頃から職員の様子を聞き取り、年に3回ほどマンツーマンで話す機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別、資格による排除は行っていない。管理者は、職員の様子などを代表者へ報告し、代表者は、その中で良い点を中心に本人に伝えるようにしている。	男女バランスよく配置され20～60歳代までおり、それぞれの経験や能力を活かして勤務しており、職員同士のコミュニケーションもとりながら情報共有している。外部研修案内があり、希望したものに参加も出来る。職員それぞれに備品、料理など係り担当があり得意分野など活かして取り組んでいる。休憩時間や休憩室も確保されており、産休や育休制度を利用する社員もいる。	



H28.1 自己・外部評価表 (GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を開催。 言葉づかいはスタッフ間で注意しあうことができている。	年間計画の中で、内部研修を行い、権利擁護や倫理に関しての学習を進めている。今年度は職員が町の外部研修で「認知症の人をつつむ街づくり」をテーマに参加し、内部での伝達も行った。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会は、自分たちが学びたいことをテーマとしてとりあげている。 外部からの研修案内は、休憩室に掲示し、興味があることから参加できるようにしている。こちらから個別に声をかける場合もある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連携会議や部会の勉強会などに参加し、交流する機会を増やしている。 グループワークも多く、他の施設の方とのやりとりができたと報告も受けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人と面会して、安心した生活をスタートできるようにと前準備をしている。 入居後は、担当職員を中心にどんなに小さいことでもそのままにはせず、話し合いをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申し込みをされる時から、支援経過記録を残している。 事前に家族に記入していただく書類もあり、そこから家族の考えなどをひろいあげることでもできている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの話をじっくり聞きながら必要な支援を、担当職員中心となり検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中でできることはしていただいている。入居者から職員が教わることが多く良い関係が築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今後どうするかなどを検討するときなど、必ず家族もまきこむようにしている。		

H28.1 自己・外部評価表 (GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、地域の方の協力もあり支援することができている。	自宅の近所の方との「よりあい」を希望する方が一時帰宅して集まったり、事業所に来てもらって居室でお茶会を楽しんだりしている。今までの美容室に家族に連れ出してもらう方もいる。外泊する方には口頭で注意事項伝えたり車いすを貸し出すこともある。遠方の家族とは電話を取り次ぐ支援もする。ドライブで自宅周辺を回ったり、今回の外食レクでは定食屋との新たに馴染みが発見された。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとり生活習慣や性格が異なるため、トラブルもある。解決しなければならぬトラブルはスタッフが間にはいり工夫している。入居者同士で居室を訪問したり、声掛け合ったりとスタッフなしでの関わりも多い。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、入院中の方への面会を続けている。 支援経過記録は契約終了後も継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動を詳しく記録に残すようにしている。そこから、思いや意向を探っている。	入居時に法人独自様式の「個人記録台帳」を使い、生活情報や心身の情報を家族からも記入してもらい引き出している。その後からは担当職員がアセスメントシートに記録し、計画作成者が監修し半年ごとに見直ししている。直近でアセス様式を見直し、詳細情報も記入できるように改善した。	アセスメントの見直し時にカンファレンス内でプランと共に回覧することで、職員の気づかなかった情報の追記や修正などを行って、さらに情報を補完していったらどうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に詳しく聞き取りをしている。家族から直接記入していただく書類もある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤したら、把握できていない分の申し送り簿を各自確認するように徹底している。そうすることで出勤した日以外の様子も把握することができる。いつもと違っていることは記録に詳細に残すようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートや、アセスメントシートを改善。介護職がチェックだけでなく、振り返る機会をもうけることで、チームつくる介護計画につなげている。	職員一人が1~2名担当し、アセス、毎月のモニタリングを受け持っている。勤務改善の目的もあり、日々のケアプランチェックを介護記録と一体化し、業務効率を図った。プラン目的も記録にあらかじめ記載することで所内での共有もされている。プラン見直しは随時~6か月でその際に担当者会議を開催する。PTなど他職種の意見はアセスに追記し、次回更新時に参照している。	担当者会議時に他職種からの意見照会を行い、議事録に照会日時と内容を記載されて、チームケアや発展的なプランの見直しにつなげてはどうか。

H28.1自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は詳細に残している。記録様式を見直し、これまでより振り返りやすく改善をした。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送り後に各ユニットで行うミーティングで話し合いが出来ている。又、大きな課題などは月1回の職員会議で取り上げるようにしている。その日、話し合う事、様子を見る事などをみおとさないようにミーティング進行表がある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりが出来る事、得意なことを発揮できる機会を多くもち、気持ちよく生活できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、こちらから指定せず、本人と家族にまかせている。施設ができること、できないことをはっきり伝えるようにしている。	事業所に隣接するクリニックが提携医になっており、希望されれば変更し、元々のかかりつけを継続する方もいる。基本は事業所から通院介助し、他科受診や必要時には家族にも来てもらっている。受診情報は面会時に家族に報告し、毎月発行の「春の山だより」にも健康状況を載せている。希望されれば訪問歯科による口腔ケアもされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の様子を一番理解しているのは自分たちだからと、何かいつもと違うと思うことをすぐに報告できるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった時に、退院の時期を家族や病院側に相談している。又、病院の担当者と家族とそれぞれに連絡をとりながら連携をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在医療連携体制加算をとっていないが、重度化した場合などの話し合いは、かかりつけ医と家族、管理者などで行うことがある。	事業所の看取り指針があり、希望されて、主治医と家族の協力が得られる場合は受け入れも検討している。今までにお二方の看取りがあり、看取りプランも作って対応した。内部研修でターミナルに関する研修を行い、事例を共有して会議でも話し合っている。希望があった際は24h対応できる医師を紹介し、対応している。必要時には家族もゲストルームに寝泊まりすることも出来る。	

H28.1 自己・外部評価表 (GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回応急手当普及員資格取得講習会に参加している。その講習会に参加した職員が中心となり、定期的に訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。地域の方や家族にも参加していただき、毎回たくさんの意見をいただいている。	訓練は2回とも消防署立ち合いで、夜間想定で行っている。開設時から運営推進会議と同日の防災訓練を行っており、民生委員や区長など地域の方にも参加してもらっている。参加者の意見から実践的な訓練として、今回は搬送する場面を想定してリアリティのある訓練が行えた。備蓄物は食料品、カセットコンロを準備しており、水は常時備蓄を現在準備中である。地域防災訓練にも職員が見学に行った。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格などを知ることで敬意をもった対応につなげている。当たり前のことだが、排泄介助時は、ドアをきちんとしめる、など会議などで振り返りをしている。	入職時に法人の担当から接遇研修をオリエンテーションで行う。相手を尊重した言葉遣いや対応にも心掛けています。入居者それぞれの状態に合わせて話し方などにも気を付けています。排泄介助時のプライバシーの配慮や同性介助の希望などにも対応しています。写真利用の同意も新たに書面で取り交わすようになった。	改めて職員が自分自身でケアや言動を振り返り、セルフチェックなどで接遇やマナーに関する意識づけを行ってみてはどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの理解力や判断力にあわせて質問の仕方をかえている。こちらで決めてしまわず、いくつかの選択肢の中から選んでもらうようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て希望に沿うことは難しいが、ひとりひとりのペースにあわせるように努力している。生活のリズムが乱れている方については、負担がかからない程度に少しずつ整えるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ際も、こちらが決めてしまうのではなく、いくつかの選択肢から選んでもらうようにしている。通院などの外出時や、来客時には整髪など心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が出てきて当たり前にならないように、朝から準備に参加していただいている。	以前は本部の栄養士と協力してメニュー作成していたが、今は栄養士資格をもった介護職員が管理し、食材は近くの商店から宅配してもらっている。できる方は下ごしらえや調理、皿洗いなども手伝ってもらっている。好みや感想は食事時に聞き取って反映させることもある。今年度初めて外食レクを企画し、非常に喜ばれた。	職員と入居者が一緒に調理して食べられるような調理レクをしてみたり、検食に関しても再度検討されてはどうだろうか。



H28.1自己・外部評価表(GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病なども考えながら量を調整している。時には主治医の意見も参考にしている。水分摂取量はどのの渴きを感じにくい高齢者だからこそこちからの努力が必要と、提供回数を増やしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。自分でできる部分はしていただいている。訪問歯科よりケアの仕方をアドバイスしてもらい、全員でケアしていけるようにと貼り出している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、できるだけトイレでの排泄を考えている。 月1回オムツ使用量の集計をして、使用量が多い方については、どのような状況なのか振り返るようにしている。	今まではユニット単位で全員分の排泄チェック表を使っていたが、最近様式を見直して介護記録の中で排泄チェックを出来るようにした。パット使用状況など見直して、気づいた職員が随時提案して負担軽減に努めている。トイレと居室が近いため夜間もトイレ排泄を基本としている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量、水分摂取量を増やしている。工夫をしてもでにくい場合は、薬で調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	これまで数名の平日毎日の入浴を実施していたが、楽しみは入浴以外にドライブや日光浴など様々であるため、話し合いをして週4～2回の入浴とした。 入浴時間については、その日の受診なども含めてミーティングで話し合い、本人にも了解を得ている。	ユニット共通の造りのユニットバスで、週3回午前中を基本に入浴してもらっている。順番も希望があれば配慮し、時間外の対応をすることもある。拒まれた際は時間や担当を変えたりして、無理強いせず最低でも週2回は入ってもらおう。好みのシャンプー、入浴剤など使うことも出来る。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとり昼寝や夜間の就寝時間は異なる。夜間の睡眠を考えてこちらで調整することもある。昼間休息が必要な方は短時間午睡の時間をとり入れる。夜眠れない方は、会話したり、暖かい飲み物を飲んだりして、眠れないことへのストレスを減らしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や調剤薬局に相談している。処方薬は変更時には、薬情報を全スタッフが確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味を聞き取り、それを継続できるようにしている。できること、できないこともあるため、できることを積極的にいただき、役割や楽しみをもってもらうようにしている。		



H28.1 自己・外部評価表 (GH春の山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診や入浴の都合などからその日に外出の希望があってもそれに沿えない場合も多い。しかし、そこで聞き取った内容は、そのままにせず実現できるように努力している。又、施設側だけで何とかしようとせず、家族などにも協力依頼している。	職員の配置の都合上、その日の希望での外出支援ができないこともあるが、説明して別の日での対応もしている。気候のいい時期には外出レクを行い、花見や買い物などに行っている。家族に連れ出してもらって外出もしている。車いすの方も本部のリフト車を借りていくことができる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者、通帳や現金の管理は家族がされているが、少額を手元に持たれている方もおられる。その中から外出時にほしい物を購入されるかたもおられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は受けることが多い。すぐに忘れるからと面会時に見てもらえるように紙に書かれる方もおられる。品物や手紙が届いたときは、電話をすることをすすめている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間と夜間の照明の色を調整している(昼間は白、夜間は黄色)。不快な臭いがこもらないように換気は頻繁に行っている。	平屋建てで各ユニットは中庭とリビングを中心にコの字型に配置されており、暖かい時期には中庭のウッドデッキで体操なども行われている。明るい色合いのフローリングと深みのある建具で和モダン調の風合いがあり、落ち着きと暖かみのある空間を作っている。リビングには小上がりの和室スペースもあり、好きなスペースで寛ぐことができる。トイレも職員用以外に9か所あり、好きな時に近い場所で利用できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや畳の部屋、廊下のベンチなど、ひとりで過ごすにも、気の合った方同士で過ごすにも使用できるようにしている。落ち着かれる場所を職員が把握している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人と家族が必要な物を持ち込まれている。こちらからは、新しく購入されずに、使い慣れたものが良いですよ、と声掛けしている。家族写真を飾られたり、ダンスやお位牌をもちこまれたり、趣味の物を飾ったりとそれぞれ違った居室となっている。	造りは共通で、引き戸で開口も広い。クローゼットと引き込みになった作り付けの棚があり、上にテレビや写真立てなど好きなものを置くことができる。周囲が開けているため日当たりや風通しもよく、掃除も行き届いている。ゲストルームが別にあり、必要があれば家族に泊まっていただくこともできる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかれば一人で行動することができるかたのために、案内をみやすくつけたり、戸惑われる方には区別をつける工夫をとりにいたりしている。		